

楽しく美しい まちづくり通信…④3

細工がつくった 楽しい仲間

楽しい仲間

として、「何でもいいから、みんな集まって、楽しく、好きなことから始めよう」と世話役の平玲子さんの呼び掛けで集まったのがきっかけとなり、5年前に発足しました。

「年をとるとどうしても、家に閉じこもりがちになるお年寄りに、もっと元気になってほしい」と平さんはいいます。

今では、米沢地区はもとより市内各地区から、二十人程集まって、「つまご」や「すべ」（サンダル）づくりに励んでいます。この会で、つまごやすべ作り

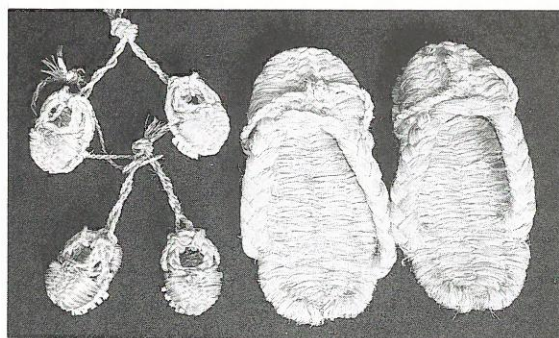
を教えている田中シワさんは、子どもころ両親が作っているのを見て細工を覚え、学校を卒業するころには自分のものは自分で作って履いたそうです。

つまごやすべは、戦後ゴム靴が普及するまで、生活必需品として使われ、農閑期には、たくさん作って土間などに吊しておいたそうで、材料に使われた藁（わら）は、つまごのような履き物はもちろんのこと、多種多様に利用されとても貴重だったといえます。

今は、つまごやすべを履く人もないので装飾品として小さく作っています。

「藁はなかなか手に入らないし、よくつづ（槌）で叩かないと使えない、この草は根元つこのほうだけ軽く叩くと使える」とイタリアンライグラスの葉を手に取りながら説明してくれました。

この植物は、イネ科に属す一年草で、道路沿いに生えています。半日陰で育った、少し柔らかいものを選んで刈り取り、乾燥して使うそうです。他に材料



ミニつまご (左) とすべ (右)

としては、湿地に見られる蒲（がま）の葉やトウモロコシの実の皮などもよく使われるそうです。また、包装用の紐（ひも）（ファミリールバンド）をリサイクル活用して「小物入れ」や「かっこべ」なども作っていました。

早くに息子さんとお嫁さんを亡くし、それ程外出することもなかった田中さんは、「つまご会ができてからは、友達もたくさんできて毎日が楽しく、火曜日待ち遠しい」とにっこりしました。

どうやら、田中さんの健康の秘訣は、楽しい仲間づくりにあるようです。作られたものは、市日の「ふれあい市」などで販売しています。



つまご作りの名人
田中シワさん (83歳)
(米沢字下村)

山々の木々もすっかり色づき、りんごの甘酸っぱい香りが漂う上米沢地区で、毎週火曜日、青年会館に集まって、細工を楽しんでいる「つまご会」を訪ねてみました。

この会は、上米沢永寿会（竹林謙橋会長）の友愛活動の一環

- 11日 (月)
- 12日 (火) 3歳児健康診査 (二戸保健所)
- 13日 (水)
- 14日 (木) 母親学級 (市保健センター)
- 15日 (金) 七五三
- 16日 (土)
- 17日 (日) 劇団カシオペア座 二戸公演 (市民文化会館)
- 18日 (月) 市長と語るう日 (市長室)
- 19日 (火) 4カ月児健康診査 (市保健センター)、市民生活相談 (市役所市民相談室)
- 20日 (水)
- 21日 (木)
- 22日 (金) 小雪
- 23日 (土) 勤労感謝の日
- 24日 (日)
- 25日 (月)

こよみ



11月11日～12月10日